

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士数	助手			
理学療法学科	0人	0人	0人	0人	0人	6人	6人	0人	54人	19.7人	
計	0人	0人	0人	0人	0人	6人	6人	0人	54人	-	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	相当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活	心理学	15	大寺 健一郎	専任
		倫理学	8	岩江 荘介	兼務
		社会福祉学	15	濱砂 泰典・野間 義史	兼務
		教育学	8	河原 国男	兼務
		統計学	15	西岡 賢裕	兼務
		物理学	15	秋山 博臣	兼務
		外国語	8	武方 壮一	兼務
		医学用語	8	学内専任教員7名	専任
		保健体育	15	児玉 孝文	兼務
		社会の理解	8	大寺 健一郎	専任
専門 基礎 分野	人体構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	45	高橋 伸育	兼務
		解剖学Ⅱ	45	石塚 匠・田中 美緒	兼務
		生理学	45	濱川 俊朗	兼務
		運動学Ⅰ	15	大寺 健一郎	専任
		運動学Ⅱ	30	長友 典子	専任
		人間発達学	15	日高 義治	兼務

専門 基礎 分野	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	15	桑迫 健二	兼務
		病理学	15	石原 明	兼務
		臨床心理学	15	安東 未廣	兼務
		内科・老年学	15	野津原 勝・迫田 直也	兼務
		整形外科学	15	山口 奈美・田島 卓也 平川 雄介・森田 雄大	兼務
		神経内科学	15	鶴田 和仁	兼務
		脳外科学	15	上原 久生・宮本 浩仁 上野 信吾・高橋 章大 宮永 陽亮・塩谷 渉	兼務
		精神医学	15	宇田川 充隆・倉増 亜紀 川添 哲志・加藤 和男 櫻井 芳樹・吉村 清太	兼務
		小児科学	15	麻田 智子・明利 聡瑠 西村 豊樹・前田 謙一 木許 恭宏・黒木 純 中谷 圭吾・澤田 一美	兼務
		薬理・栄養・画像学	15	宮本 浩仁・川上 倫子 有村 洋平・中村 圭太	兼務
		救急救命・予防学	15	濱川 俊朗	兼務
		リハビリテーション医学Ⅰ	15	田代 学	兼務
		リハビリテーション医学Ⅱ	15	田代 学	兼務
		保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論Ⅰ	15	古瀬 正志
リハビリテーション概論Ⅱ	15		古瀬 正志	専任	
関係職種論	15		吉田 敏朗・長友 典子	専任	
公衆衛生学	15		日野浦 拓之	兼務	
専門 分野	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	15	馬場 義行	専任
		理学療法管理学Ⅱ	15	高月 航	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	30	馬場 義行	専任
		理学療法概論Ⅱ	30	吉田 敏朗	専任
		臨床運動学Ⅰ	15	大寺 健一郎	専任
		臨床運動学Ⅱ	15	大寺 健一郎	専任
	理学療法評価学	理学療法評価法Ⅰ	15	大寺 健一郎	専任
		理学療法評価法Ⅱ	30	村野 信之	専任
		理学療法評価法Ⅲ	45	村野 信之	専任
	理学療法治療学	運動療法Ⅰ	15	大寺 健一郎	専任
		運動療法Ⅱ	30	長友 典子	専任
		運動療法Ⅲ	15	大寺 健一郎・村野 信之	専任
		理学療法統合Ⅰ	15	大寺 健一郎・村野 信之	専任
		理学療法統合Ⅱ	15	大寺 健一郎・村野 信之	専任
		臨床理学療法Ⅰ	30	村野 信之	専任
		臨床理学療法Ⅱ	45	長友 典子	専任
		臨床理学療法Ⅲ	45	馬場 義行	専任
		臨床理学療法Ⅳ	30	吉田 敏朗	専任
		物理療法Ⅰ	15	馬場 義行	専任
		物理療法Ⅱ	15	古瀬 正志	専任
		日常生活活動	15	古瀬 正志	専任
		義肢・装具学Ⅰ	15	吉田 敏朗	専任
		義肢・装具学Ⅱ	30	吉田 敏朗	専任
	地域理学療法学	生活環境論	15	古瀬 正志	専任
		地域理学療法学Ⅰ	15	古瀬 正志	専任
		地域理学療法学Ⅱ	15	古瀬 正志・馬場 義行 臨床実習指導者	専任・兼務
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	20	吉田 敏朗・長友 典子 臨床実習指導者	専任・兼務
		臨床実習Ⅱ	40	古瀬 正志・馬場 義行 臨床実習指導者	専任・兼務
		臨床実習Ⅲ	360	大寺 健一郎・村野 信之 臨床実習指導者	専任・兼務

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3

	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
関連病院での理学療法業務の見学実習	1年前期	リハビリテーション医学Ⅰ	1年前期
		理学療法概論Ⅰ	1年前期
リハビリテーション他職種業務(OT・ST)の見学実習	1年後期	リハビリテーション概論Ⅰ	1年前期
		理学療法概論Ⅰ	1年前期
介護福祉施設・グループホーム・サ高住の見学実習	1年後期	リハビリテーション概論Ⅰ	1年前期
		地域理学療法学Ⅰ	1年前期
介護老人保健施設での見学実習	1年後期	地域理学療法学Ⅰ	1年後期
		理学療法概論Ⅰ	1年前・後期
訪問・通所リハビリテーションの見学実習	1年後期	地域理学療法学Ⅰ	1年前期
		リハビリテーション概論Ⅱ	1年後期
関連病院での理学療法の検査測定実習	2年後期	評価法ⅠⅡⅢ	2年後期
病院・施設での臨床実習(評価実習)	2年後期	臨床理学療法ⅠⅡⅢⅣ	2年前・後期
		評価法ⅠⅡⅢ	2年後期
病院・施設での総合臨床実習	3年前期	臨床理学療法ⅠⅡⅢⅣ	2年前・後期
		評価法ⅠⅡⅢ	2年後期
		臨床実習Ⅱ	2年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	宮崎リハビリテーション学院学校関係者評価委員会
委員名	学校関係者評価委員
組織の開催頻度	1年に一度(3月実施)
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 職員による学校自己評価調査結果及び改善方策についての評価
	・ 今後の教育活動その他学校運営等の改善及び工夫等の方向性を助言
自己点検・評価結果の公表	HPアドレス http://miyareha.jp/news/2810-2/

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2

	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1
--	----------------------	---

●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教育開発委員会
	委員構成等	教職員 7 名
	改善の仕組みの実際	委員がシラバスの必要事項(授業計画、全体目標、成績評価基準・方法など)が定められた書式に記載されているか、記載内容が適切であるかの点検を行い、内容等に不備があれば、修正を求める。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>学校として自己点検・評価及び第三者評価の結果等に基づき中・長期の事業計画を踏まえた単年度計画を策定し、職員へ周知を図りながら組織的に課題に取り組んでいる。</p> <p>また年度を通じて定例会議を実施し、目標達成に向けた業務内容の具体的な取り組みを示し、事業所内での情報共有・連携を図っている。</p>
--